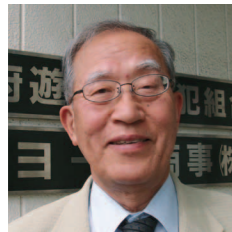




山口県 防府遊技場防犯組合  
「長期継続した社会福祉等助成並びに  
地域貢献」事業



防府遊技場防犯組合  
前組合長  
梁川康成さん



防府遊技場防犯組合  
事務局  
吉留良子さん

選考理由

社会貢献活動審査委員会  
委員  
松尾守人氏



地域の福祉事業を支援して、社会福祉協議会などに資金援助すること29年間。「善意の箱」をホールに設置して寄せられた寄付金を福祉施設に贈る。毎年10月には各ホールの従業員による公共施設の清掃活動。防犯パトロール隊を結成して、所轄署員同行による防犯活動は、毎月行われて21年間。こうした地域に密着した地道な支援や、自らが参加して汗を流す奉仕活動が、長期に継続されていることで、地域社会からの高い評価と信頼につながっている。「地域社会との共生」の精神が発揮されており、関係者の努力に敬意を表したい。

地域の福祉や防犯を  
長期にわたって支援

「善意の箱」を介して29年間続く寄付活動

「千里の道も一歩から」と言うが、これは一歩目を踏み出すことの大切さを表わすとともに、次の一歩、その次の一歩と、着実に歩みを積み重ねることの大切さも表わしている。その格好の事例となるのが、山口県の防府遊技場防犯組合が長年にわたって継続している社会貢献事業である。

防府遊技場防犯組合では、地域福祉の充実を目的に1986年に設立された「防府市地域福祉振興基金」の趣旨に賛同し、同年から毎年欠かさず、基金を運営する防府市社会福祉協議会(以下、社協)に対して寄付を行っている。毎年、100万円を原則(86年は80万円、2003年は200万円、14年は120万円)として寄付を続け、昨年までの29年間で、その総額は3000万円に達した。

防府市からの要請を受けて始まった寄付だというのが、「どうしても遊技業には社会の厳しい目が向けられがち。少しでも地元の皆様にかわいがってもらうためには、市民の役に立つことで我々にやれることがあれば、積極的にやったほうがいい。そう考えていたときに、タイミングよく、市からお話をいただきました」と、前組合長で山口県遊技業協同組合理事長を長く務めた梁川康成さんは当時を振り返る。

この寄付の原資となっているのは、組合傘下のホールのカウンターに設置された「善意の箱」である。この箱に、お客様の善意による端玉やこぼれ球、さらに寄付金を入れてもらい、それを毎月、組合事務局が回収、プールしておいたものから、毎年100万円を組合の通常総会懇親会の席上で社協に贈呈している。この寄付金は、社協が進める小地域(概ね小学校区を単位とする)見守りネットワーク活動、ボランティアセンター運営、青少年の健全育成支援などに主に使われているという。「景気の如何にかかわらず、毎年コンスタントに一定額を寄付していただけているということで、社協のほうからも頼られ、感謝されています」と、梁川さん。このほかにも組合が主導する形で、遊



組合傘下の各ホールのカウンターに設置された「善意の箱」



防犯パトロール隊による駐車場のパトロール



毎年、約30名が参加して環境浄化活動を行う



防府市社会福祉協議会から感謝状を受領

技客が寄付してくれた景品のお菓子をホールから組合事務局に届けてもらい、それを社協を通じて児童福祉施設や老人福祉施設などに贈っている。この活動も既に9年になる。

防犯パトロールと清掃活動で地域に貢献

さらに、防府遊技場防犯組合が1994年から続けているのが、「防犯パトロール隊」である。これは当時の防府警察署生活安全課の提案で始められたものだが、全ホールから各1名を、組合長および防府警察署長の連名によってパトロール隊員として委嘱し(任期1年)、毎月(12月のみ2回)第3火曜日午前10時から、2班に分かれ、お揃いのジャンパーや腕章を付け、警察署員と一緒にホール内外、駐車場、景品交換所などを巡回パトロールすることで、車上狙いや交換所を狙った強盗などの犯罪、子どもの車内放置などの防止に努めている。

パトロール隊を見かけた遊技客や住民から、「今日はパトロールじゃね」と声を掛けられる機会も多く、その活動は地域に浸透している。「お陰様で、この組合傘下のホー

ルで、そうした事件や事故は一度もありません」と、梁川さん。このパトロールがきっかけで、不審者の検挙につながった例もあるという。

この防犯パトロール隊の活動から派生する形で、2007年から犯罪の起こりにくい環境づくりを目指して始まったのが、全ホール(現在13ホール)の店長や従業員、さらに警察署員など約30名が参加して、防府駅周辺で空き缶などのゴミ収集や草取りなどを行う「環境浄化活動」である。この活動も毎年1回、定期的に行われている。

「すべてホールや警察署の協力があるからこそ実施できるものですが、今後も組合として継続して取り組んでいきたい」と、梁川さん。ものごとを継続して行うためには、やはりそれを牽引するリーダーの存在が欠かせない。「梁川前組合長のリーダーシップがあるからこそ、みんなが一つにまとまって、さまざまな地域貢献に取り組むことができています」と、組合事務局の吉留良子さんは話す。地道だが着実な一歩、その継続が千里の道につながっていくのだろう。